

学力向上について

青木 一夫 議員

【質問】 全国学力テストの結果において、群馬県は全国

順位の低下が深刻である、と県教育長の議会答弁がありました。本市の状況や、課題克服の改善方策等についてお尋ねします。

【答】 本市平均は、国語と算数・数学とも県全体の中ではほぼ同程度ですが、中

学校の応用に関するB問題は課題の残る結果でした。

原因としては、知識や技能を活用して考えて表現する力の育成と、テレビやスマートフォン等に多くの時間を使い、学校の授業以外の勉強時間が少ないことが考えられます。学力向上につきましては、授業改善、学習

形態の工夫・改善、家庭学習の習慣化の3つの柱を掲げて、各学校に指導・助言してまいりたいと思います。

【質問】 本市の小学校英語活動推進事業における成果と現状についてお尋ねします。

【答】 成果として、多くの児童が英語に慣れ親しみ、教師の指導力の向上、中学校とのスムーズな連携が図られるようになりました。

国においては、小学校での5、6年生の英語の学習を教科化することを公表しま

したが、国や県の動向を踏まえ、児童が楽しく英語を学べるように指導方法の改善・充実、小中学校での連携を図りながら、児童のコミュニケーション能力の素地の育成に取り組んでまいります。

【質問】 教育委員会として、英語に限らず一定レベルの基礎学力と応用力を全児童生徒に身につけさせる責任と基礎学力を保証する立場にあります。すべての教科に活用できるタブレット端末を中学校全生徒と小学校高

が近年57・8%だが、80%以上の受け入れができる病院体制への早期確立を図るべきであり、大学病院など新病院の誘致について考える時期にあります。地域医療で最も大切なことは、市民の「生命を守る」ことに尽きますが、緊急を要する救急患者の受け入れができない地域では、「命の安全が保障されない街」と呼ばれてしまい、こうした地域では「人は安心して生活ができない」と感じてしまう

学年に支給することや、インターネットを活用した学習方法を検討してほしいが、その考え方をお尋ねします。

【答】 画像や動画など視覚的で分かりやすい教材を活用できるタブレットPCの導入については、7月から9月にかけての予定ですが、今後、教員の研修などを通して、ICTを効果的に活用した分かりやすく深まりのある授業の実現や子ども達の情報活用能力の育成に努めていきたいと考えております。

行財政運営について 地域医療について

吉野 高史 議員

【質問】 安楽岡市長の就任の挨拶の中では、「厳しい財政状況に対応するため、『入

るをはかりて出るを制す』の考えのもと、自主財源の確保を積極的に努めるとともに、すべての事業を改めて精査し、費用対効果の考えをさらに徹底し、民間委託や指定管理者制度などを

積極的に導入して、健全財政を推進してまいります。」と立派な就任挨拶でのお話

でしたが、結果的には二期7年が経過しても経常収支比率については、悪化の一途をたどっています。こうしたことを踏まえ、今後、経常収支比率を改善することによって、市民のために

【答】 歳入における市税など一般財源の確保や、歳出における徹底した経費削減、第五次行政改革大綱に掲げた行革の推進など、効率的な行政運営を着実に推進し、経常収支比率の改善に向けて取り組んでまいります。

【質問】 館林厚生病院においては、救急患者の受け入れ

が近年57・8%だが、80%以上の受け入れができる病院体制への早期確立を図るべきであり、大学病院など新病院の誘致について考える時期にあります。地域医療で最も大切なことは、市民の「生命を守る」ことに尽きますが、緊急を要する救急患者の受け入れができない地域では、「命の安全が保障されない街」と呼ばれてしまい、こうした地域では「人は安心して生活ができない」と感じてしまう

ため、本市の活気を失う原因にもつながります。住民に対し、こうした不安を取り除くことをどのように考えるのか、お伺いします。

【答】 医療圏における基準病床数の制限などにより、新病院の誘致は難しいと考えております。全国的な医師不足の状況の中、広域での医療の完結という考えから、本市でも病病連携・病診連携が円滑に行われるよう館林厚生病院の充実を図ってまいります。

ため、本市の活気を失う原因にもつながります。住民に対し、こうした不安を取り除くことをどのように考えるのか、お伺いします。